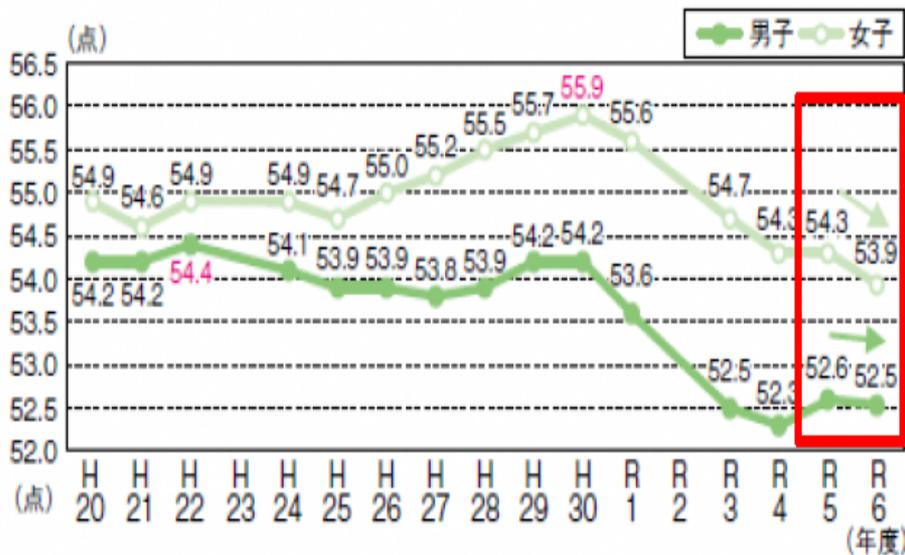


令和6年12月発表

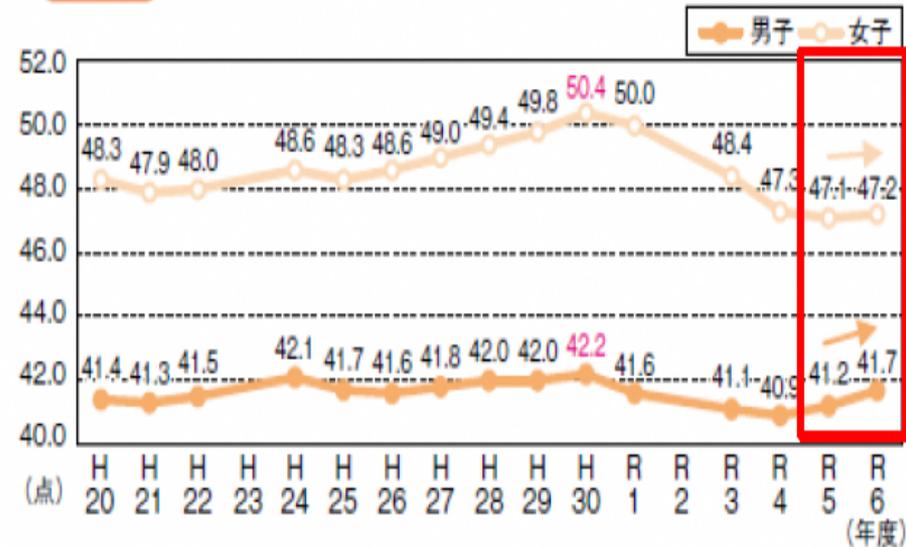
○体力合計点

体力合計点は、中学校男子ではコロナ前の水準に戻ったが、小学校男子及び中学校女子では前年度からほぼ横ばい、小学校女子は引き続き低下している。

小学校



中学校

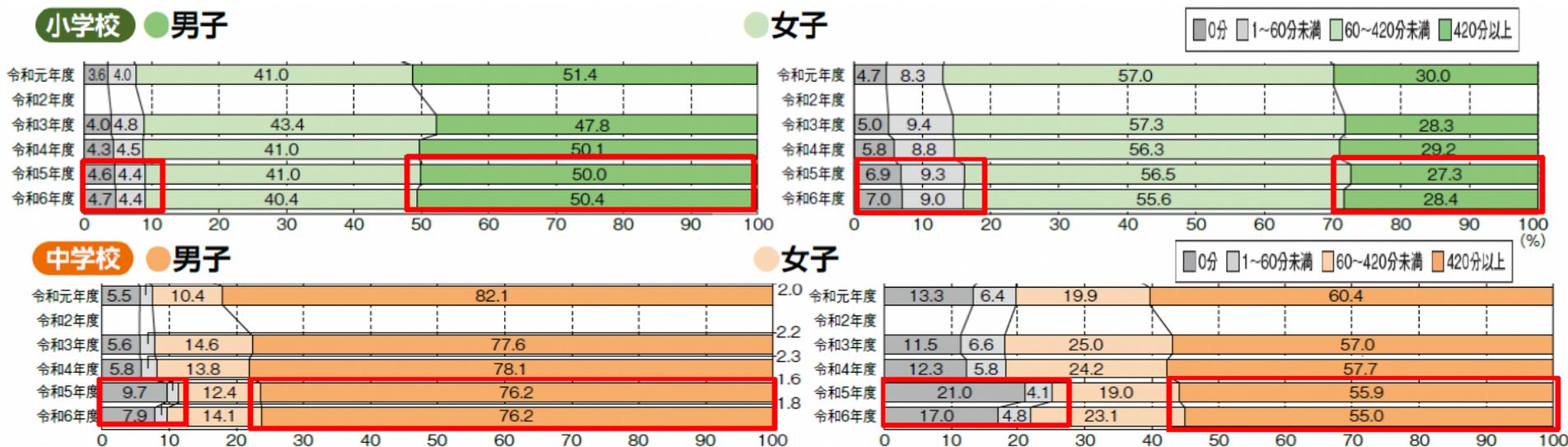


令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

令和6年12月発表

○運動時間（体育の授業を除く）

1週間の総運動時間が420分以上の割合は、小学校で増加、中学校男子で横ばい、中学校女子は減少。
60分未満の割合は、小学校でほぼ横ばい、中学校は減少。



「運動時間が長い」児童生徒ほど、体力合計点が高くなる傾向にある。

	小学校		中学校	
	男子	女子	男子	女子
0分~60分未満	43.2点	48.3点	32.2点	39.0点
60分~420分未満	49.0点	53.0点	36.3点	43.2点
420分以上	56.9点	58.8点	44.0点	52.6点
全国平均	52.5点	53.9点	41.7点	47.2点

令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

令和6年12月発表

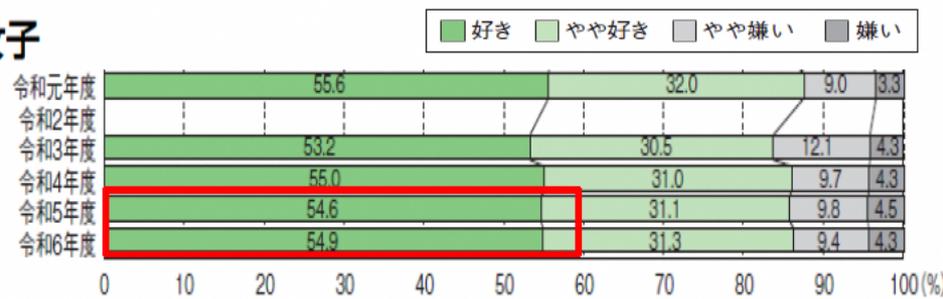
○運動に対する意識

「運動は好き」と答えた児童生徒は、小中学校男女ともに増加し、中学校男子では過去最高。

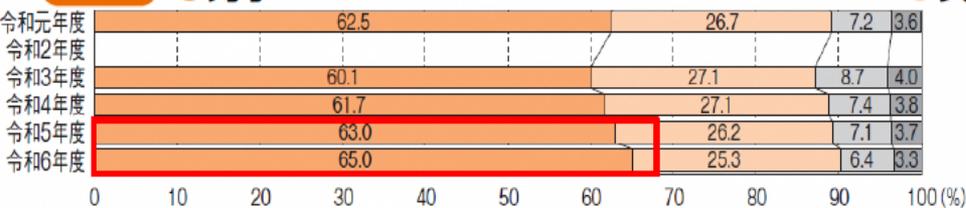
小学校 ●男子



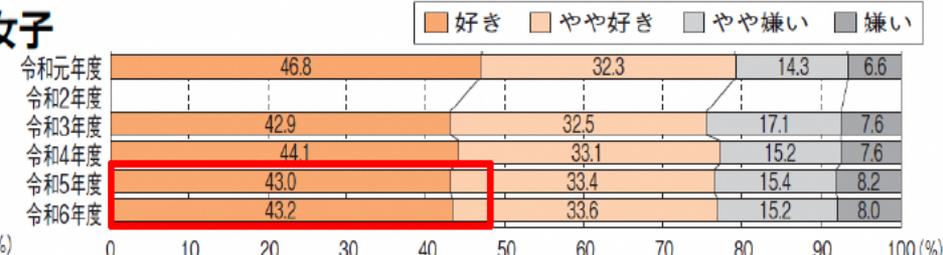
●女子



中学校 ●男子



●女子



「運動は好き」と回答した児童生徒は、それ以外の児童生徒と比べ体力合計点が高い。

	小学校		中学校	
	男子	女子	男子	女子
好き	55.0	57.2	45.1	53.9
やや好き	46.7	51.1	36.7	44.8
やや嫌い	43.1	47.9	31.7	39.0
嫌い	41.1	45.6	30.0	35.6
全国平均	52.5	53.9	41.7	47.2

子供の運動習慣形成と体力向上に向けた取組について

令和6年12月

- 運動時間や運動に関する意識と体力合計点との関係では、**1週間の総運動時間が長い児童生徒や、運動やスポーツが好きと回答した児童生徒ほど体力合計点が高くなる傾向**がみられる
- スポーツ庁では、**生活全体を通じて少しずつでも運動機会を確保し、運動好きな子供や日常から運動に親しむ子供を増やす**ことを目指して、発達段階や子供の多様なニーズを踏まえた取組や、運動意欲を引き出す授業づくりなど、**学校・家庭・地域における様々な取組を支援し、子供の運動習慣の形成や体力向上**の取組を推進

子供のニーズに応じた多様な地域スポーツ環境の整備

競技・大会志向の活動だけでなく、マルチスポーツ、アーバンスポーツ、レクリエーション、体験型キャンプ、パラスポーツなど、**子供の多様なニーズに応えられるスポーツ機会を提供**する
(地域クラブ活動の運営団体等の整備、指導者の確保、デジタル動画の活用、コミュニティ・スクール等の仕組みの活用等)

幼児期からの運動習慣形成

発達段階の初期から働きかけを行い、運動を楽しむ基礎を培う
楽しく体を動かすことの見本を示した「**幼児期運動指針**」、望ましい動きや能力を獲得ための運動プログラム「**アクティブチャイルドプログラム**」や幼児期からの「**運動遊び**」の周知・普及を行う。

体育授業及び授業外における運動意欲の向上

体育の授業等を通じて運動やスポーツが好きになり、日常から運動に親しむ児童生徒を増やす

- ①**体育授業へのアスリートの派遣**を通じた児童生徒の運動意欲を喚起する教育手法の普及
- ②**体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず共に学ぶ体育授業**の充実
- ③**業前業間や放課後等**における体力向上の**取組事例**を周知

手軽に継続して運動するキッカケづくり

子供から大人まで手軽に取り組むことができる室伏長官が考案・実演する動画を提供し、運動を行うキッカケをつくとともに、継続的に運動を行う習慣づくりを促進

- ・身体診断「**セルフチェック**」動画をe-learning化
- ・「**力を引き出す**」ウォーミングアップ動画を公表
- ・「**紙風船エクササイズ**」動画を公表

令和5年度スポーツの実施状況等に関する世論調査（調査の概要）

1. 目的と主な調査項目

- 目的は、スポーツの実施状況等に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とすること。
- 主な調査項目は、「運動・スポーツの実施状況と今後の意向について」、「みるスポーツ、ささえるスポーツについて」、「運動・スポーツの価値やWell-beingについて」等から構成されている。

2. 調査要領

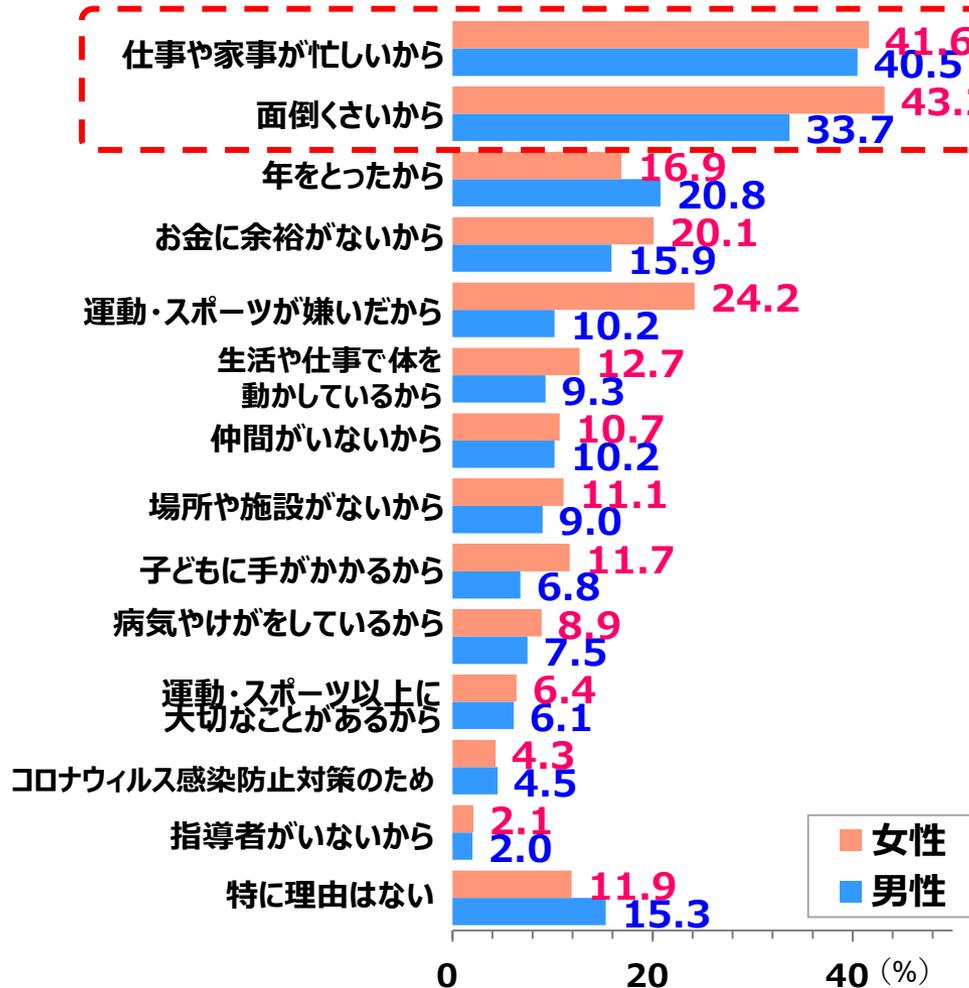
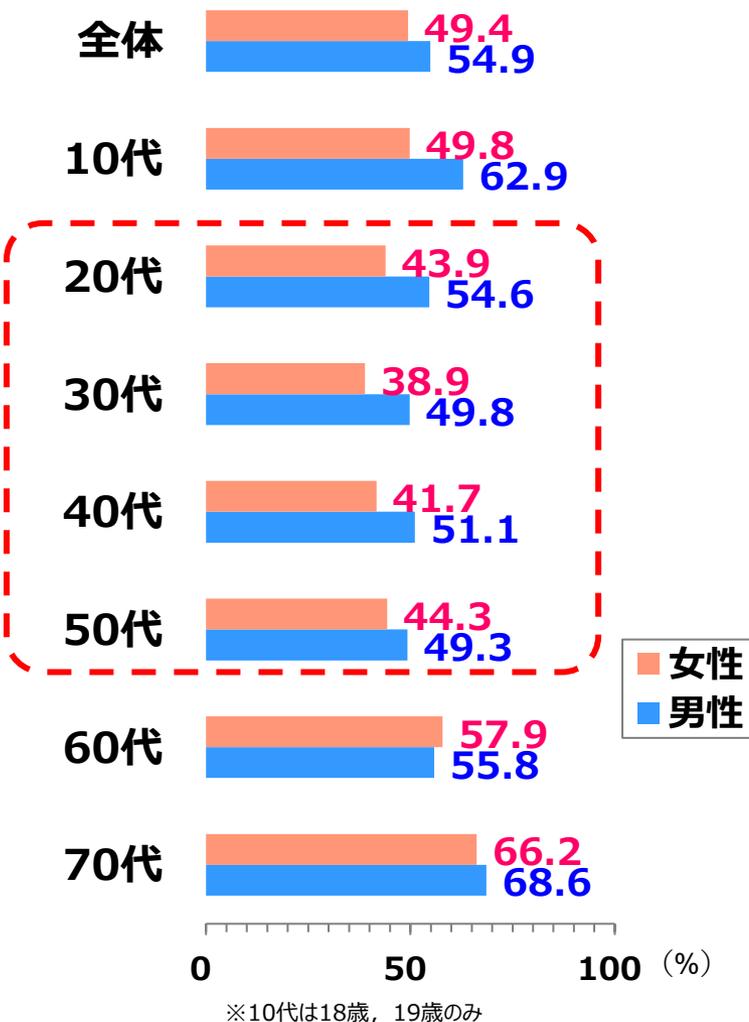
- **調査対象・回収数：全国の18歳～79歳の男女（有効回収数：40,000人（※））**
※平成27年度までは調査員による個別面接聴取で標本数3,000人であったが、平成28年度よりWebアンケート調査に変更され、回収数も20,000になった。さらに、令和4年度から回収数を40,000人としている。
- **調査方法：登録モニターを対象としたWebアンケート調査**
- **回収割付：人口構成比（各地域の住民基本台帳を基に数を設定）に準拠した割付**
- **調査期間：令和5年11月2日（木）～11月30日（木）**

地域区分	地域詳細	男性								女性							
		18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
北海道	北海道	19	97	113	152	146	145	141	813	18	92	112	153	156	159	179	869
東北計	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	33	160	191	250	239	262	236	1371	32	145	180	237	236	271	270	1371
北関東	茨城、栃木、群馬	27	137	157	210	197	186	188	1102	26	120	141	191	183	186	207	1054
首都圏	埼玉、千葉、東京、神奈川	133	842	948	1205	1166	834	850	5978	127	820	893	1131	1079	822	981	5853
北陸	新潟、富山、石川、福井、	20	99	111	152	143	140	145	810	19	90	104	144	141	145	166	809
東山	山梨、長野、岐阜	20	94	103	142	140	129	135	763	19	85	96	133	136	133	153	755
東海	静岡、愛知、三重	52	280	312	402	385	311	326	2068	49	252	281	370	362	316	371	2001
近畿二府一県	京都、大阪、兵庫	66	355	377	500	495	381	422	2596	63	357	381	509	506	406	510	2732
その他近畿圏	滋賀、奈良、和歌山	15	73	80	106	103	93	100	570	14	69	79	107	108	101	117	595
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	29	141	158	211	192	187	201	1119	27	131	151	203	195	197	234	1138
四国	徳島、香川、愛媛、高知	14	67	78	108	99	103	108	577	14	62	76	105	103	110	127	597
九州・沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、	58	271	321	404	367	393	358	2172	56	269	326	408	388	418	422	2287
	計	486	2,616	2,949	3,842	3,672	3,164	3,210	19,939	464	2,492	2,820	3,691	3,593	3,264	3,737	20,061

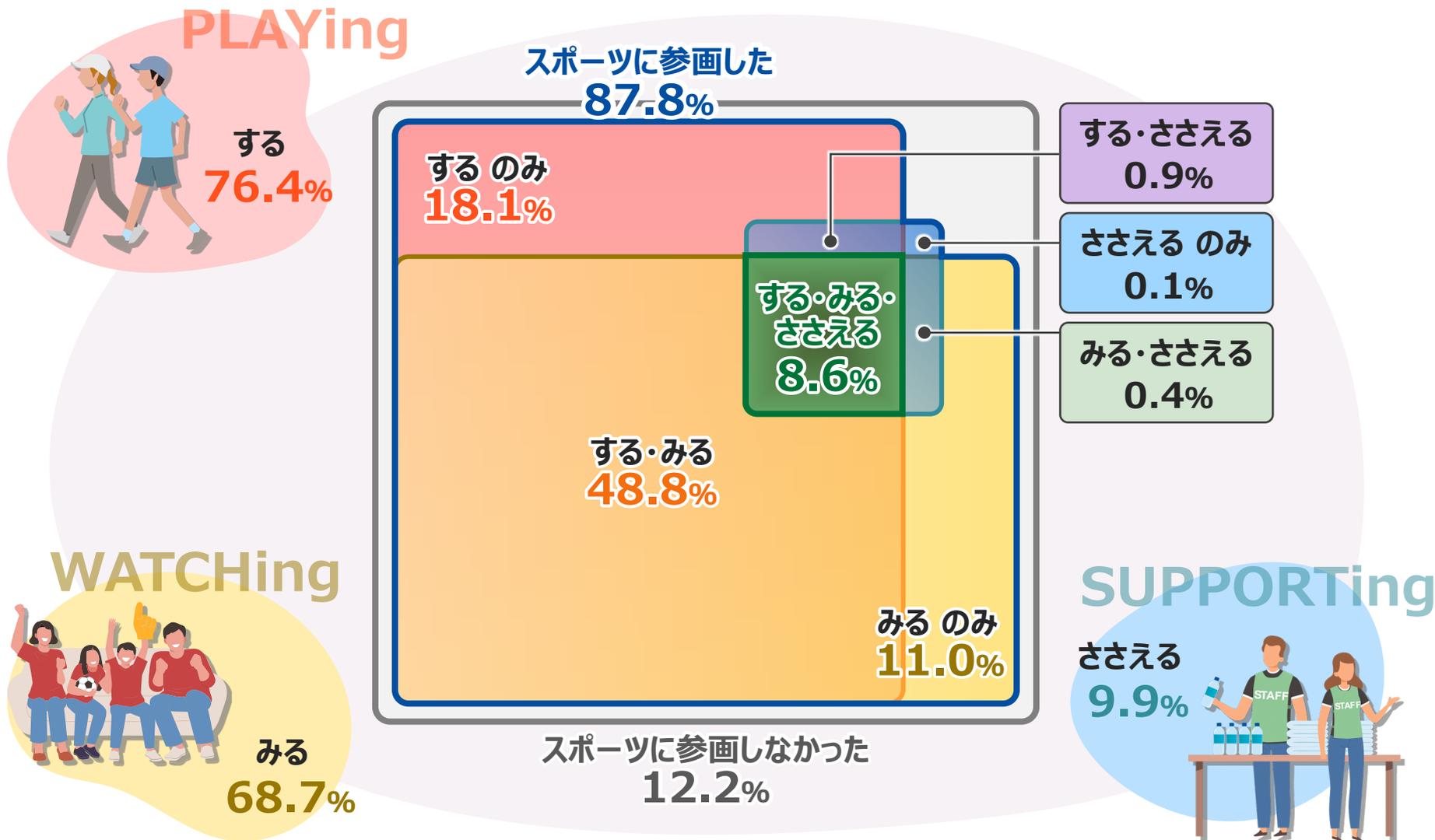
性別・年代別スポーツ実施率と阻害要因（一般）

■年代・性別スポーツ実施率（週1日以上）

■スポーツ実施の阻害要因 ※複数回答可 （週に1日以上実施できない・直近1年に運動しなかった理由）



R5 スポーツ参画状況（する・みる・ささえる）の割合（全体：18～79歳）



※「する」の割合は、「この1年間に運動やスポーツを実施した日数」で1日以上と回答した者の割合
※「みる」の割合は、「直接現地」または「テレビやインターネット」のいずれかで観戦と回答した者の割合
※「ささえる」の割合は、「運動・スポーツをささえる活動」で「行っていない」と「わからない」を除いた割合